

# 大和魂・大和心の語誌的研究

若井 勲夫 [著]

日本人固有の魂・心の  
本性・資質を見つめなおす



大和魂・大和心は、魂・心に大和を冠することによって、日本人の精神面・生活面において、どのような意識され、発想され、言語に表されてきたのか。

本書では、上代の魂・心の考え方・捉え方を基盤にして、言語と表現、国語学と国文学を密接に関連づけ、融合させて考察することにより、言語としての意識史・発想史、さらに文化史・精神史を、その時代とその流れの中で解釈、分析し、日本人の心の在り方、働き方を明らかにする。

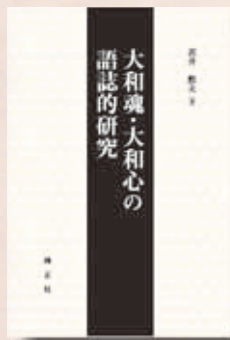
定価：五、五〇〇円（10%税込）

〔本体五、〇〇〇円〕

令和五年九月発行

A5判・上製・カバー装・四〇〇頁

ISBN978-4-7646-0151-2



## 著者略歴

若井 勲夫（わかい いさお）

昭和十八年、京都市に生まれる。

京都大学文学部を卒業して、同四十五年、

京都大学大学院文学研究科修士課程修了。

国語学国文学専攻。

京都文教短期大学助教授（児童教育学科）

を経て、京都産業大学教授（文化学部）、

平成二十六年、定年退職し、現在、同大

学名誉教授。

〔著書〕

『教科書をどうすべきか国語科編』（日本工業新

聞社）

『京都府の方言』（共著、京都府教育委員会）

『和気公と護王神社』（共著、護王神社）

『護王神社』（共著、護王神社）

『国語論考 語誌的意味論と発想論的解釈文

法』（和泉書院）

『唱歌・童歌・寮歌―近代日本の国語研究―』（勉

誠出版）

『童謡・わらべうたの言葉とこころ』（勉誠出版）

『和気清麻呂にみる誠忠のこころ―古代より平

成に至る景仰史―』（ミネルヴァ書房）

『鹿児島県（大隅国）和気神社―御鎮座七十年

記念―』（編著、和気神社）

『歌から人生を学ぶ 青春歌謡名詩抄』（文芸社）

〔ご注文・お問い合わせ〕

錦正社

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町544-6 URL <https://kinseisha.jp/>  
電話 03(5261)2891 FAX03(5261)2892

書店様番線	注文数	大和魂・大和心の語誌的研究	若井 勲夫 [著]
	冊		定価：本体 5,000 円 (税別) (ISBN978-4-7646-0151-2)
	お名前		
	〒 ご住所		
		お電話	

序章

- (一) 研究の現状と問題点
- (二) 通説への疑問と論点
- (三) 言語研究の立場と方法
- (四) 語誌から言語の文化史・精神史へ

第一章 基本語とその複合語の語構成的意味論

- (一) 「たま」「たましひ」「こころ」「さも」の基本義
- (二) 「たましひ」「こころ」の複合語の意味世界
- (三) 「たましひ」と「こころ」の関わり

第二章 「たま」「たましひ」の漢語と和語

- (一) 漢語の古訓
- (二) 古辞書の字訓
- (三) 和歌・物語の和語

第三章 「大和魂」「大和心」の初出例の解釈

- (一) 「大和魂」(源氏物語少女巻)
  - (1) 古注釈書の解釈——日本のめあかしのこころ
  - (2) 「やまと」を冠する表現意識・意味構造
  - (3) 世才・俗才説——近世後期に始る
  - (4) 世才・俗才説の支持と批判
  - (5) 文化と行動を生む指導精神——吉沢義則説
  - (6) 常識・理解力・自由な精神力——奥村伊久良説
  - (7) 現代の注釈書・訳書、古語・国語辞典の解釈
  - (8) 「やまとたましひの世に用あらるる」の考証
  - (9) 学問と心おきて・価値
  - (10) 才は大和魂の重用を補強するもの
  - (11) 大和魂が秀れた詩を生む
- (二) 「大和心」(赤染衛門歌)
- (三) 和歌による大和魂の発揮
  - (1) 清少納言の応酬(枕草子)
  - (2) 藤原公任の「三船の誉れ」(大鏡)
- (四) 国風文化と大和魂・大和心

第四章 外国の受容・理解

- (一) 大和魂の翻訳語の語源・語義
  - (1) 英訳語・仏訳語
  - (2) 独訳語
  - (3) アニメティズムの捉へ方
- (二) 源氏物語少女巻の翻訳とその日本語訳
  - (1) 翻訳書
  - (2) 書名と巻名の訳
  - (3) 大和魂の訳
  - (4) 当該部分の日本語訳

(5) 翻訳に対する私見

第五章 「大和魂」「大和心」の意味分類

- (一) 中古・中世の深化・分化
- (二) 近世の拡大・発展
  - (1) 文芸(小説)
  - (2) 評論(国学者・儒学者)
  - (3) 辞書(国語・百科・和英)
  - (4) 大和魂と大和心の意義比較

第六章 本居宣長「大和心」歌の解釈

- (一) 桜のうるはしさから心のうるはしさへ
  - (1) 前提となる桜観
  - (2) 本来の歌の意味
- (二) わが国の道、日本人の心性
- (三) わが身の死を連想

第七章 「花は桜木、人は武士」の句の解釈

- (一) 流布・意味の変化・構文的な意味
- (二) 本居宣長「大和心」歌との関連——宣長以前か宣長以後か
  - (1) 「桜木」と「武士」を含む対句
  - (2) そのほかの対句、一句のみ

第八章 幕末維新期の新展開

- (一) 国学者の評論・和歌
- (二) 孝明天皇の御製
- (三) 勤皇家の和歌(抄)
- (四) 宣長「大和心」歌と「花は桜木」句の解釈
- (五) 和魂洋才の萌芽

第九章 近現代の新発展・特化

- (一) 明治・大正時代
  - (1) 評論
  - (2) 小説・記録・戯曲
  - (3) 和歌・詩
  - (4) 宣長「大和心」歌の解釈
  - (5) 「花は桜木」句の残英
  - (6) 軍歌
  - (7) 寮歌
  - (8) 唱歌
  - (9) 俗謡・琵琶歌
  - (10) 国語辞書
- (二) 昭和前期時代
  - (1) 評論・小説
  - (2) 和歌・詩
  - (3) 宣長「大和心」歌の解釈

(4) 「花は桜木」句の残照

(5) 軍歌

(6) 国語辞書

第十章 敗戦を経て再出発

- (1) 評論
- (2) 和歌・歌謡
- (3) 宣長「大和心」歌の解釈
- (4) 国語辞書

第十一章 新しい活路を開いて再生へ

- (一) 造語による新たな発揚
  - (1) 「一魂」
  - (2) 士魂商才から商魂へ
  - (3) 和魂和才・和魂洋芸・新和魂
  - (4) 師魂教才・和魂電才
- (二) スポーツ界での開花
  - (1) ヤマトグマシイ(ボクシング)
  - (2) なでしこジャパン・撫子魂(女子サッカー)
  - (3) サムライブルー・侍魂(男子サッカー)
  - (4) 侍ジャパン(野球)
  - (5) さくらジャパン・ほか
  - (6) 大和魂(大相撲)
  - (7) 桜戦士(ラグビー)
  - (8) オリニックの和魂
  - (9) 愛称の命名の発想
- (三) 芸能界での復活
- (四) サムライ・マインド、サムライ精神——新しい大和魂

終章 大和魂・大和心の千年誌——あとがきに代へて

- (1) 語義記述と意味変化
- (2) 意味の考へ方
- (3) 通説の批判
- (4) 大和魂・大和心の意義
- (5) 魂と才の相違
- (6) 和魂は根幹で、漢才は手段
- (7) 大和魂・大和心の解釈の変遷
- (8) 本居宣長「大和心」歌の解釈の変遷
- (9) 「花は桜木、人は武士」の句の解釈の変遷
- (10) 歌・語の命脈
- (11) 内面の精神(知情意)から外面の活力の発現へ
- (12) 大和魂は「指導的開顕精神」
- (13) 言語文化史・言語精神史への展望

索引 (人名索引／書名・論文・曲名索引)